



「音階」

楽典編⑤

---

kanaderuclub



## 【音階】

ある音を起点として1オクターブ上の同名の音に達するまで、特定の秩序にしたがって配列された音列を音階という。

- ☆ 長音階（長調を構成する音階）
- ☆ 短音階（短調を構成する音階）
- ☆ 教会旋法
- ☆ 全音音階
- ☆ 民族的音階 など

## 【長音階】

「ド」「C」を起点とし、幹音だけで音階を示す。  
音符の下のローマ数字は、それぞれの音が第何番目の音であるかを示すもので、第I音、第II音・・・と呼ばれる。

1 オクターブ

I II III IV V VI VII I

主音 下屬音 属音 導音

I II III IV V VI VII I

主 音・・・音階の起点。音階の代表音

属 音・・・主音の上方完全5度にあり、主音を支配。属音の働きによって主音の性格が規定される

下屬音・・・主音の下方完全5度にあり、主音と属音の働きを補助する。

完全5度 完全5度

下屬 主音 属音

導 音・・・音階の第VII音で、主音に導かれる性格をもつ。

長調の音階の各音は下記のような音程関係で配列されている

長2度 長2度 短2度 長2度 長2度 短2度

I II III IV V VI VII I

長2度

長2度・長2度・短2度の組み合わせを「テトラコード」という。  
テトラコードを長2度で組み合わせたら「長音階」になる。

長2度 長2度 短2度 長2度 長2度 短2度

I II III IV V VI VII I

長2度

「ソ」を主音とする「ト長調」は「ファ・シャープ」を音階固有音としてもつことになる

長2度 長2度 短2度 長2度 長2度 短2度

I II III IV V VI VII I

長2度

「ファ」を主音とする「ハ長調」は「シ・フラット」を音階固有音としてもつことになる

## 【短音階】

「ラ」「A」を起点とし、幹音だけで音階を示す。  
音符の下のローマ数字は、それぞれの音が第何番目の音である  
かを示すもので、第Ⅰ音、第Ⅱ音・・・と呼ばれる。  
＜自然短音階＞＜和声短音階＞＜旋律短音階＞の種類がある。

1 オクターブ

主音 下属音 属音

上記の音階での第Ⅶ音は、主音との関係が短2度ではないため「導音」ではない

＜自然短音階＞・・・長音階を3度下げた形

長2度 短2度 長2度 長2度 短2度 長2度 長2度

長2度 短2度 長2度 長2度 短2度 長2度 長2度

I II III IV V VI VII I

「ミ」を主音とする「ホ短調」は「ファ・シャープ」を音階固有音としてもつことになる

長2度 短2度 長2度 長2度 短2度 長2度 長2度

I II III IV V VI VII I

「レ」を主音とする「ニ短調」は「シ・フラット」を音階固有音としてもつことになる

〈和声短音階〉・・・自然短音階の第Ⅶ音を臨時記号で半音上げ導音にした短音階

《自然短音階》

長2度 短2度 長2度 長2度 短2度 長2度 長2度

I II III IV V VI VII I

《和声短音階》

長2度 短2度 長2度 長2度 短2度 <増2度> <短2度>

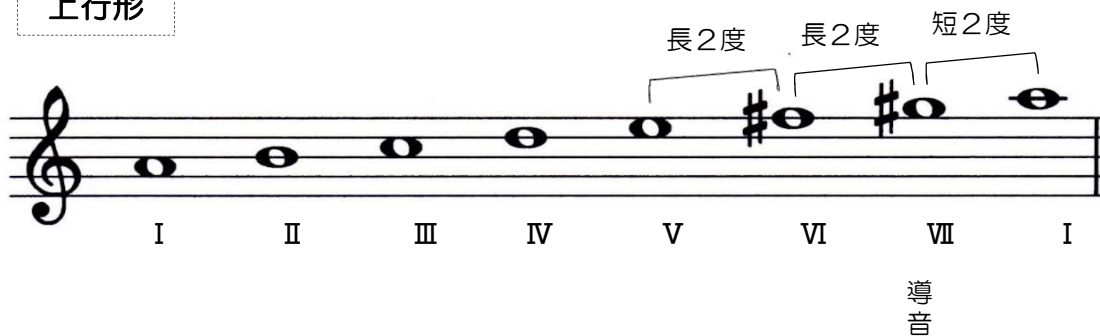
I II III IV V VI VII I

導音

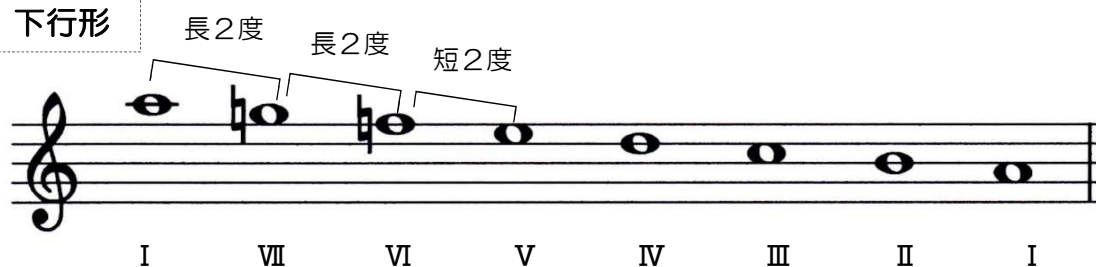
＜旋律短音階＞・・・音階の上行形では自然短音階の第Ⅵ音と第Ⅶ音を半音あげ、  
下行形では自然短音階のまま用いた音階

短音階では、旋律が音階各音を順次上行しⅦ→Ⅰ（主音）に進むとき、Ⅶは、導音でなければならない。Ⅶを臨時記号で半音あげ導音にするとⅥとの隔たりが増2度になり、違和感が出てくるためⅥを半音上げⅦとの音程を長2度にする。一方、旋律が音階各音を順次下行するときは導音の必要がないので、自然短音階のまま用いる。

上行形



下行形



「ふれあい」の1部

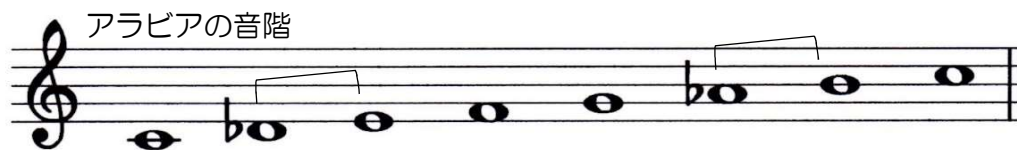
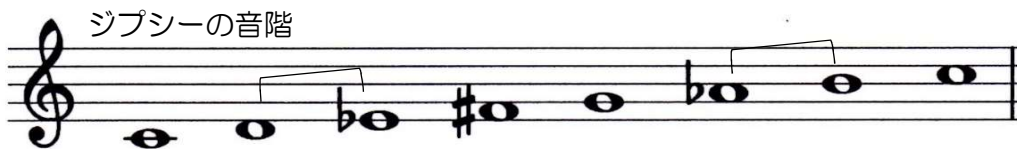


「カナデル1-a」の1部



## 【その他の音階】

- 教会旋法・・・グリーンスリーブス など
- 全音音階・・・「鉄腕アトム」のイントロ など
- 民族的音階・・・アラビアの音階、スコットランドの音階、沖縄の音階 など



沖縄の音階やスコットランドの音階のように5つの音で出来ている音階を『ペンタトニック（5音階）』という

## <課題>

- ♪・・・□長調の長音階を作ってシャープが5個あるか確かめましょう。
- ♪・・・持っている楽譜からイ短調の曲を探して、どの短音階が使われているか確認しましょう。
- ♪・・・鉄腕アトムのイントロを聞いて「全音音階」の印象を言葉にしましょう。
- ♪・・・民族的音階を使って、作曲をしてみましょう。
- ♪・・・「ドレミ」はイタリア語、ハ長調の「ハ」は日本語「シャープ」は英語で呼称が混在していることを忘れないようにしましょう。



~次回は調~